

熊本市議会議員 田島ゆきはる市政報告



市役所14階より撮影

ごあいさつ

日頃より、私の議員活動にご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげさまで、市議会議員として2年が経過し、1期目も折り返しの年になりました。新型コロナウイルス感染症の収束の兆しがみえない中、直接お会いして話を伺う機会が減っておりますが、市政を身近に！をモットーに、地域の皆さまの声を市政に届けるため、日々頑張っております。また、令和3年度議会の常任委員会においては、経済委員会から環境水道委員会へ変更になり、副委員長を拝命しました。重責ではございますが、本市の環境問題について取り組んで参りますので、今後ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

地域の皆さまと共に 安心・安全のまちづくり



龍田中学校グランド前（カーブミラー設置）



龍田中学校前（横断歩道）



三協橋龍田側（ゆずりあいゾーン）



龍田九丁目交差点（横断歩道）

横断歩道は、熊本県警の管轄のため、龍田交番にご対応いただきました。通学路の安全確保のため迅速にご対応いただきました。ありがとうございました

トピックス 龍田まちづくりセンター（公民館）が利用しやすくなりました。



正面玄関前をバリアフリー化する工事が行われ、緊急車両の進入スペースや障がい者用駐車場3台が新設されました。

3月9日一般質問の傍聴にお越しいただいた皆さま（議会棟5F傍聴席前にて）



経歴

- 昭和 42年 2月23日生まれ
- 昭和 54年 熊本市立龍田小学校卒業
- 昭和 57年 熊本市立東部中学校卒業
- 昭和 60年 熊本県立菊池農業高等学校卒業
- 南九州コカ・コーラボトリング株式会社入社
- 平成 30年 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社退社
- 平成 31年 熊本市議会議員 初当選

主な役職

- 《地域活動》 龍田校区2町内自治会 副会長
熊本市消防団第25分団 団員
龍田校区まちづくり協議会 顧問
保護司
- 《市議会》 環境水道委員会 副委員長
予算決算委員会
熊本市町界町名審議会委員
防衛議員連盟

会員募集中！

後援会にはどなたでも入会できます

田島ゆきはるの活動を 応援してください！

田島ゆきはる後援会への入会ご希望の方は「後援会入会申込書」にご記入いただき、FAXにて事務所までご送付下さい。（郵送でも結構です）
※ お届け頂いた個人情報は会の運営以外には使用致しません。

はる
女性部「華の会」メンバー 同時募集中

熊本市議会議員(北区)

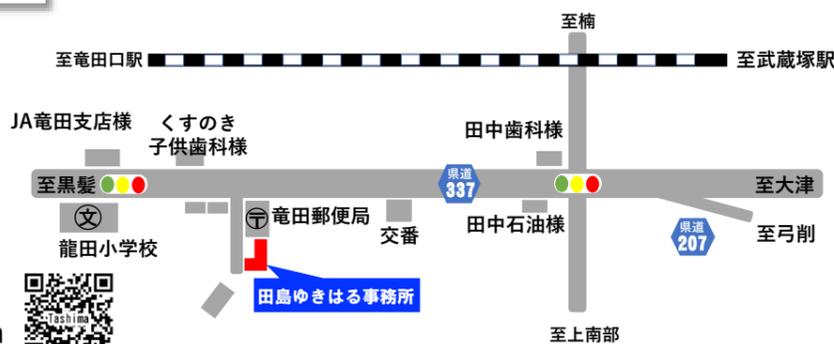
たしま 田島ゆきはる事務所

〒861-8006

住所：熊本市北区龍田7丁目20-21

TEL・FAX：096-240-2596

ホームページ：https://tashimayukiharu.com



令和3年第1回定例会（2/19開会～3/24閉会）にて一般質問を行いました。今回も、マスクを着用して新型コロナウイルス感染症の対策を行いながらの本会議でした。たくさんの方に傍聴いただき、誠にありがとうございました。本誌では全質問8項目の、全文の中から一部を抜粋して掲載いたします。尚、質問の全録画は熊本市役所ホームページにて、ご視聴いただけます。



1 自殺予防対策について

質問 全国の自殺者数は平成22年以降10年連続で減少傾向にあったが、令和2年については、11年ぶりに増加に転じた。新型コロナウイルス感染症が要因と考えられるが、本市の状況と「誰も自殺に追い込まれることのない、支え合う熊本市」の実現を目指すための相談体制など、十分な対応はできているのか。

健康福祉局長答弁 本市令和2年の自殺者数は117人で、前年と比較して29人増加した。40代から60代の男性が特に多く、全国の傾向とは異なっている。こころの健康センターで電話相談を受け付けており、連携中枢都市圏の6市町村とともにSNSを活用した相談も行っている。今後は相談員を増員するなど、相談しやすい環境づくりに取り組む。

2 高齢者の一人暮らしについて

質問 近年は核家族化、少子高齢化が進んだことで、一人暮らしの高齢者が増加傾向にある。本市においても今後さらに高齢者人口が増えることから、高齢者のみの世帯が増加することが予想される。単身高齢者の生活状況を把握し、必要とされる支援につなげていくことが、孤独・孤立対策に一番重要な課題だが、本市の状況と今後の対策はできているのか。

健康福祉局長答弁 令和2年4月現在、本市の一人暮らしの高齢者数は、約4万9千人である。コロナウイルスの影響が長引く中で、国においては孤独・孤立の問題について総合的な対策を進める「孤独・孤立対策担当室」が設置された。本市も課題を抱えている人に気づき、必要な支援につなぐことができるよう、多様な見守りの手法について関係部局と連携して検討する。

3 白川の安心安全な治水対策について

質問 地球温暖化による気候変動や線状降水帯の発生による局地的大雨など、甚大な豪雨被害が発生している。白川の河川整備は小碩橋から、みらい大橋までの約9.4kmの区間を熊本県が主体となって整備されたが、龍田地域の三協橋においては、橋の部分だけが狭くなっている。白川全体の治水対策は、下流域の中心市街地への被害も予想されるが、総合的な治水対策にどのように関わっていくのか。

大西市長答弁 白川水系河川整備計画の変更がなされ、堤防整備や河道掘削などあわせ、橋梁や堰など横断工作物対策が示されており、三協橋の改築も新たに位置付けられた。深刻な水害が頻発している中、河川整備計画に基づく治水対策の一日も早い実現が極めて重要であり、引き続き事業主体である国などに対し強く働き掛けて参る。



三協橋

4 本市が管理する橋について

質問 本市が管理する橋は、平成30年4月1日現在で2,909橋あり、1950年代から1970年代にかけての、高度経済成長期に全体の約54%を占める1,184橋が建設されており、このまま推移すれば、急速な橋の老朽化が進む。本市は橋梁長寿命化修繕計画を策定しているが、早期に措置を講ずべき橋が、どのくらい存在し今後の修繕計画はどのようにしているのか。

都市建設局長 本市が管理する橋梁のうち、2m以上ある2,835橋について法定点検を行った。診断結果は、早期措置段階114橋、予防保全段階477橋、健全とされる判定は2,214橋であった。早期措置の144橋は6割の85橋に着手しており、残る4割についても令和4年度末までの修繕工事を見込んでいる。今後も、安全・安心な道路環境の確保に努める。

5 旧市民病院の跡地について

質問 旧市民病院の解体工事は近隣住民から騒音や振動の苦情が寄せられて工事を中断しているが、対応の不備や説明不足が指摘されている。中断に至った経緯と進捗状況、今後の対応はどうなっているか。跡地の利活用については売却することを基本としているが、市有財産の価値を市民にとって最大化するための検討も必要ではないか。地域住民の方の要望や民間事業者の意向も考慮のうえ、中長期的な視点で活用策や手法を検討すべきであるが、今後の方針は。



6 有害鳥獣の捕獲について

質問 立田山において、イノシシの繁殖数が増えている。来年3月には全国都市緑化フェアの会場にもなっているが、来場者への被害が懸念される。どのようにイノシシの数を減らしていくのか。また、現在の有害鳥獣駆除隊への鳥獣捕獲報償金は、他の自治体と比較しても労力に見合った金額とは思えない。金額の見直しは検討できないか。本市だけの捕獲頭数ではジビエ利用など、商業ベースには満たないと思うが、他自治体と連携したジビエの活用計画はないか。

病院事業管理者答弁 地下構造の解体に入ったところ、特に振動が大きくなり苦情が寄せられた、工事を一時中断し現場確認するとともに、粉じん対策と振動低減対策について説明会を開催した。改めて丁寧な説明や対応に努め、住民の方の理解を得ながら工事を進めていく。病院事業会計の収支改善を図り、安定した経営のもと医療提供を行うため、売却の方針で考えているところ。

大西市長答弁 市有財産は市民の貴重な財産、市民サービスの観点から効果的に活用する必要があると認識している。市民病院跡地は病院局の財産であり、地方公営企業法の規定に基づき、管理者が処分等を行う。その取り扱いについては、基本的な考え方にに基づき、地元の皆様や民間事業者のご意見も参考にしながら、適切に対応されるものとする。

7 2050温室効果ガス排出実績ゼロに向けて

質問 2050年温室効果ガス排出実績ゼロについては、「目標」というより「必ず達成すべき条件」と捉えるべきと考える。「熊本連携中枢都市圏 地球温暖化対策実行計画」の策定にあたり、本市を含む熊本連携中枢都市圏18市町村共同による気候非常事態宣言にはじまり、複数自治体による共同策定によって、補完効果や波及効果、そして、共同実施による推進効果も見込まれることから、その手法は非常に高く評価できるものと思う。計画の策定後は市民、事業者、行政それぞれの立場から見て、具体的にどのように変わっていくのか。

大西市長答弁 住民、事業者、行政の各主体が取り組むべき具体的な施策を、5つの基本方針のもと体系的に示している。住民、事業者の皆には、現在または将来の気候や地球環境に関する危機意識を共有していただき、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進など、計画に掲げる様々な対策に積極的に取り組んでいただきたい。一方、行政の役割としては、情報の発信や各種施策の普及啓発が重要であるため、令和3年度には、温暖化対策への理解を促し、圏域全体で一体となって取り組むためのシンポジウムを開催することとしている。

8 公共交通計画について

質問 本市では、九州の中核をなす交流拠点都市として発展を続ける中、本格的な人口減少・超高齢社会の到来により、人材不足や予算などの事情で公共交通機関の本数が大きく削減され、商業や公共交通などの日常生活に必要なサービスの維持・確保が困難になることが予想される。このような中、昨年12月に、まちなか駐車場適正化計画も策定され、今後、熊本地域公共交通計画の改訂や、MaaSの検討を進めることと承知している、今後の取組と、進めるにあたっての課題についてどのように考えているか。

大西市長答弁 MaaSの導入により、市民のみならず来訪される方々が、あらゆる交通手段で円滑に移動できる環境が構築され、観光や商業等のサービスとの連携を図ることによって、地域経済の活性化にもつながる。令和3年度に交通事業者や関係団体と協議会を設立し、情報の共有化などを図り、利用者ニーズに即した「熊本版MaaS」の導入について方向性を整理する。

※ MaaS = Mobility as a Service
バス・鉄道・タクシー・飛行機など、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを一つに統合し、より便利な移動を実現する仕組みのこと。